《板書例》

義仲と巴が別れるとき

義仲　「おのれは、疾う疾う、女なれば…」

　→巴への愛情

巴　なほ落ちも行かざりけるが、あまりに言はれ奉つて、

「あつぱれ、よからう敵がな。…」

　→義仲への愛情

愛による生がテーマ

《板書例》

主従二騎になったとき

義仲　「日ごろは何ともおぼえぬ鎧が…」
「…一所でこそ討ち死にをもせめ。」

兼平　「…臆病でこそさはおぼしめし候へ。」
馬より飛び降り、主の馬の口に取りついて…

《板書例》

義仲と兼平が最期を遂げたとき

義仲　あふれどもあふれども…今井が行方のおぼつかなさに

兼平　「今はたれをかばはんとてか、いくさをもすべき。」

義仲→乳母子兼平への信頼

兼平→主の名誉を思う忠誠

愛による死がテーマ